

第8号

福島復興心理・教育臨床センター（FCセンター）ニューズレター

さすけねえ

発行日：平成27年6月20日 発行人：橋本和典（センター代表） 編集：吉田愛・田中令子

福島復興心理・教育臨床センター（通称:FCセンター）も2年目の夏を迎えようとしています。心の復興を進めようと思われた当センターではこれまで多くの出会いがありました。そして今、ここに集まる方一人一人の心の底力によって動いています。そんな方々のフレッシュな感覚を、センターの活動とともにお伝えするニューズレターが「さすけねえ」です。今号よりリニューアルしてお届けいたします。（臨床スタッフ：吉田

『不測の衝撃講習会』に参加された方々より

福島復興心理・教育臨床センターでは、昨年から『不測の衝撃』をテキストとした講習会を行っています。この講習会は、「心の知識を福島県民のものに」を合言葉に、毎回テキストに沿ったテーマからメガ災害後の復興について基礎から学ぶものです。今年度から第2期が始まっています。ここでこれまで参加された方々の声を少しずつご紹介していきます。

◆第3回（2015/1/25）「災害後のメンタルヘルスアセスメント」に参加された方々より

「実際の生の人の声を聞いて良かったです。他の方もおっしゃっていましたが、自分もメディアの美談に毒されていたなど反省しました。悪いところを見るタフさがほしいです。」（国際基督教大学学生 芝理紗子さん）

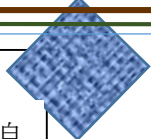
「物的高度成長はできたが、人間的な高度成長は逆に低下しているように思います。デフレ社会とは心がデフレ化しているのではないのでしょうか。今回の震災の対応が物的対応中心に進められ、このセンターで行われていることがもっと地域社会が重要視することで活躍の場を提供できることを考えたい。1000年前の震災では今ほど人に与える精神的な課題は少なくなかったと思います。（中略）今こそこのPTSDのセンターが社会の中で活躍できるように支援したいと思います。」（郡山東ライオンズクラブ 福島県倫理法人会 三瓶利正さん）

◆第2回(2014/11/16)「セルフケアの重要性」に参加された方より

「これからの時代、気象変動に伴う大災害が起こりうる事が予測されています。起きたときどうしようかという不安があります。物理的にできること、例えば食料の備蓄、避難経路の確認などをすることは大切です。しかし、不安の軽減には、何かまだ足りない感じです。講演の中で、災害時の心身の反応をあらかじめ知っておくことで災害時の心の負担が軽くなる。自分自身を見つめる情報となりうると学ばせていただきました。転ばぬ先の杖として勉強させていただきたいと思います。」（匿名）

講習会はどなたでもご参加いただけます。講習会のテーマやテキストの詳細はホームページをご覧ください。

<お知らせ>次回開室日は8/22（土）・23（日）です。7月はお休みとなります。詳細はホームページをご覧ください。



「ふくしま市民活動フェスティバル 2015」に参加しました！



幾田英夫さん
(町おこしスタッフ)

5月31日(日)、福島県で市民活動を行なうNPO法人等の団体が一同に会し、自らの活動などを一般市民に紹介する「福島市民活動フェスティバル 2015」がAOZなど3箇所で行なわれ、福島復興心理・教育臨床センターも参加しました。私自身、福島市は初めての参加で心配でしたが杞憂でした。当日は大勢の参加者が集まり、盛況のうちに終わりました。

震災後4年あまりが経過し、福島復興心理・教育臨床センターも立ち上がって2年近くなります。この間にも表面的な復興はともかくとして、震災を契機とした心の荒廃は水面下で広がっているようです。

↓ 当日のシンポジウムの様子

シンポジウムの席上、足立先生から自殺や刑法犯の増加が被災地では増加する一方であることを警察の統計資料を基に説明されたのが印象に残っています。今回の参加者の多さは福島の方々の今後への不安の裏返しであろうと感じました。

また東北地方広域で心の復興を考える組織構想の報告もあり、全般的には勇気付けられる話の多いシンポジウムでした。これからも地道な活動の継続こそが希望ある未来への一本道だと再認識しました。



素敵なお便りが届いています！

センター事務局には毎月素敵なお便りが届きます。送ってくださるのは、郡山市在住の藤沢けさこさん。藤沢さんは、センターの町おこしスタッフとしても活躍してくださっています。

藤沢さんが書かれた短い一言や色鮮やかなモチーフは、温かい気持ちになったりハッとしたり、手に取るスタッフの心を豊かにしてくれます。

絵手紙はホームページでもご紹介しています。ぜひご覧ください。

藤沢けさこさん(郡山市)



福島復興心理・教育臨床センター Educational Center for Fukushima Reconstruction

●センター所在地：

〒963-0115 福島県郡山市南 1-45
公益社団法人 全日本不動産協会福島県本部内

●相談窓口/センター事務局

〒153-0041 東京都目黒区駒場 2-8-9
PAS 心理教育研究所 非営利事業部
担当：中村有希 (臨床ディレクター)
橋本和典 (福島復興心理・教育臨床センター代表)

ご相談・お問い合わせ TEL: 03-6407-8201

携帯電話: 080-3606-0640 (代表 橋本)

どうぞお気軽にご連絡ください。

ホームページ: <http://www.fukushimafreeclinic.com/>

お知らせ等、随時更新しています。こちらをご覧ください。

アクセス



郡山駅下車。駅から約3km。車で約5分。

郡山ICから約7.5km。車で約10分。